

保健・福祉・子育て支援施設（仮称）

令和3年度 第2回 基本構想等策定委員会 議事録要旨

■開催概要

日時：令和3年 6月23日（火）15：00～

場所：荒尾市役所1階 11号会議室

出席者：委員11名、事務局16名

	所属・役職	氏名
委員	熊本大学 熊本創生推進機構大学院担当准教授	田中 尚人
	荒尾市医師会 副会長	伊藤 隆康
	荒尾市社会福祉協議会 事務局長	塚本 雅之
	荒尾市食生活改善推進員協議会 書記	大塚 恵子
	荒尾市健康づくり推進協議会	原田 裕美
	荒尾市民生委員児童委員協議会連合会 会長	甲斐田 忠
	荒尾市老人クラブ連合会 副会長	和田 トミ子(欠席)
	荒尾市身体障害者福祉協会連合会 会長	斎 浩史
	荒尾市保育協議会	伊藤 美佳子(欠席)
	熊本県私立幼稚園連合会荒玉支部荒尾地区 理事長	開田 郁子
	荒尾市保育園保護者会連合会	石崎 剛
	荒尾市PTA連合会 会計	坪根 ゆり
荒尾市地区協議会会長会 会長	河部 啓宣	
事務局	荒尾市 保健福祉部	片山部長
	荒尾市 福祉課	浦浜課長
	荒尾市 子育て支援課	原口課長
	荒尾市 保険介護課	岩本課長
	荒尾市 すこやか未来課	田代課長、木下係長、前広副主任
	ウェルネス拠点タスクフォース	田川課長、奥村課長補佐
	パンフィックコンサルタンツ株式会社	山口、江本、片野
関係者	社会福祉協議会	近藤課長、平川課長補佐
	総合政策課	伊藤副主任、森副主任

■次第

1 開会

2 議題

- ① 施設整備により変わることで、できること【資料1】
- ② 需要調査速報結果概要【資料2】
- ③ パブリックコメント原案(たたき台)について【資料3】

■議事概要

委員長：去年の豪雨災害があり、災害リスクが現在とても高くなっている。加えてコロナ禍の災害ということもあり、地震以外の災害も想定される。それらも考えながらこの保健福祉子育て支援施設がちゃんと機能する事が大事であると思うので、そこまで責任を負った委員会だと思う。今日はとても大事な会だと考えている。資料3の最後にスケジュールが書いてあり、現在、基本計画に入っているが、期間が短い。この委員会は今日第二回であるが、全部で何回あるのか。

事務局：基本計画策定委員会は今年度全三回を予定している。今回でパブリックコメントの原案をご審議頂き、その後パブリックコメントを行った後、三回目は答申案をご審議頂くという形になる。

委員長：この資料3がその計画のたたき台でほぼ原案である。この計画案というのが急に出来上がったわけではなく、去年基本構想で1年かけて4回あり、割と納得のいくものが出来たと考える。前回から委員も変わられて新しく来られた方や、役場内でも異動があり、今年からタスクフォースの皆さんも来られている中で、今日が実質この計画については話すことはほぼ最後である。次は3回目なので、意見は今日中に言って頂きたい。沢山意見を言って頂き、それを皆で話し合っていきたいと思うのでご協力頂きたいと考える。

■議題1 施設整備により変わる事、できる事

資料1に基づき事務局（PCKK）より説明

委員長：資料1の使い方については、委員の皆さんが、今事務局が話したように説明出来なければいけないが、難しいのではないかと。事務局が例えた話等は、副読本等という形で何か準備しておいて貰った方がよい。4枚目はまだ分かるが3枚目の説明が全く入ってこない。今は文化センターを借りながらやっている等の説明はとても分かり易かったが、この資料を見ながらでは多分一般の人は殆ど分からないのではないかと思う。行政の方は辛うじて自分の専門内では分かるかもしれないが、それを改良する必要があると思う。説明にあった通り、これ自体はずっと議論してきている事であり、皆さんもお馴染みの図だと思うので1枚目は特に問題ない。2枚目の絵だけ見ると、この小さな丸一個で保健分野全部やっているように見える。もう少し丸を大きく出来ないだろうか。全部同じ大きさの丸になっているが、福祉は細かく分けてやっており、保健センターは沢山人がいて仕事していると思われる。

事務局：人数的に言うと保健センターは30人40人位で運営している。

委員長：保健センターはこれで大丈夫かと思ってしまうので、もう少し力強い丸にしといて頂くことで、見た人も行政の方がやっている仕事分かり易くなる。逆に言うと福祉の方は今困っているのではないかと捉えてしまう。3枚目はやはりよく分からない図になっているが、使いたい図である。それに比べると4枚目が凄く分かり易いので、これは割と比較的説明し易い。

A委員：子育て支援分野、小学校、中学校、高校も子育てに入ると思うが、資料1の3の一番下が保育園・幼稚園までしか表記がない。小学校、中学校、高校に関する相談対応はどこになるのか。

事務局：相談機能という事で言うと、子ども家庭総合支援拠点で18歳未満の児童に対する相談機能を持っている。学校にもスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーという相談を受けられる方がいるので、そちらで様々な相談をされて家庭への支援が必要という場合は、そこと連携を取って子ども家庭総合支援拠点の方がサポートするというような形を考えている。小学校以上の子供さん達は学校が活動の拠点になるので、まずはスクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラーが相談先だと考えている。

A 委員：報告する際には小中高に関しては全て学校への相談をとという事で伝えればよいか。

事務局：そこはケースバイケースだとは思いますが、当然、子ども家庭総合支援拠点に直接相談されるケースもある。そういった場合は当然対応しているが、学校や家庭の様々な困り事は学校が窓口になってスクールソーシャルワーカーが対応するという事は考えられるので、あくまで連携というような形を想定している。3枚目の部分で保育園、幼稚園しか入っていなかった点については、学校との連携も付け加えたい。

委員長：拠点に関わる事だが、まだ出来ていない物なのでなかなか質問もし辛い。やはり既存の物のイメージが強く、今あるものを頼りに判断していくと思うので、ここに小学校中学校が書いていないことは不安に思われるのではないかな。

B 委員：折角1枚目や2枚目が色分けしてあるから資料3も同じような色分けをした方が分かり易いのではないかな。子育て支援はピンクで保健機能はブルー、福祉はグリーンにした方が良い。

事務局：改良する。

委員長：他は統一してやっているが、やはり図3だけ分かりづらい。もし図3を作るなら、伝えるべきことはワンストップの効用なので、そこを目立たせるようにする方がよい。出来ない事は別途書いて貰って直で説明出来なければ、作る意味を皆さんに説明し辛い。何が便利になるのかと言われた時に説明出来るのが強みになると思う。それが分かりやすい図をB委員のアドバイスに従って1枚目や、2枚目、4枚目と通して見えられるようになればいい図になると思う。

■議題2 需要調査速報結果概要

資料2を基に、事務局より説明

委員長：説明が省略されたが、1つ目の質問の性別は圧倒的に女性が多いがこれで良いのか。

事務局：小学校・幼稚園・保育園経由で保護者の皆さんに調査依頼をしているが、やはりお便り関係を確認されるのは母親の方が多く、そのままアンケートに回答頂いた事で偏りが出ていると考える。女性だけが子育てするわけではないので、ある程度男女とも回答していたほうが良いと思うが、一定の子育て世代のニーズというのはこれで把握できていると考えている。

委員長：どちらが働いているかによるかもしれないが、単に手紙を受け取った方が回答して頂いていると理解したい。結果を拝見したがとてもいいデータである。特に12番、このワンストップでこの施設を作ることにに関して皆さんがどれだけ賛成反対と思っているかについてだが、どちらでもない人達は一体どう思っているのか少し気になる。皆さんが支払っている貴重な税金で作る公共施設なのに、どちらでもないのは冷たい気がするが、市役所が特に力を入れている1,2,3番の設問については前向きに捉え、大事だと言って貰っているので、十分作る理由というのは

後押しして貰っていると考える。

B 委員：アンケートの取り方はどのように行ったのか。

事務局：インターネットでウェブから回答して頂いている。

B 委員：紙も配っているわけであるが、本来紙を配るのではなく、誰でも投票出来るようにした方がもっと広い意見が集まるのではないだろうか。紙を出すという時点で選択しているという事になってしまうのではないか。

事務局：調査対象として、小学校・幼稚園・保育園等の保護者の皆さんにお配りしているので、対象としては全年齢ではなく、そういった世代の方に行っている事になる。

B 委員：対象者となる人は全員に送っているという事なのか。

事務局：そうである。小学校・幼稚園・保育園の方にご協力頂いて、その世代の方には送っている。

B 委員：回答率は何%なのか。

事務局：配布数が 4551。回答数が 540 なので、回答率が 11.9%という事になる。

B 委員：11.9%というのは統計的に優位と考えていい回答数なのか。

事務局：大丈夫である。

B 委員：10%のアンケートでよいのか。ある意味今日の会議は非常に大事な会議であり、それで10%しか返ってきていないアンケートで発表する事は果たしてどうなのか。

事務局：今回は速報版で、まだ集計中である。今の所では 1000 以上集まっている所なので、そちらの方も集計したものを計画の方に反映していきたい。

委員長：この施設が子育てのニーズを把握するという意味では人数の割合の話ではないので、有効だと思う。アンケートはずっとやり続けるべきで、その間にニーズを引き出すことが出来れば良い。また、もっと女性が働いている間に男親が子育てするという社会が増えていくことが望ましいと思うので、今後いつでも親が意見を言えるシステムを作って行かねばならない。基本構想を策定している時も、アンケートを個別に役場で取って頂いたりしている。そういうデータを貯めていくという意味でも有効かとは思いますが、そういうご指摘もあると思う。

ゆくゆくは道の駅との併設に関しても聞いていきたい。今は保健福祉子育てについてしか聞いていないが、もっと子育ての交流等もあるかもしれないので意見を聞いていきたいと考える。

■議題3 パブリックコメント原案(たたき台)について

資料3に基づき、事務局より資料3に基づき説明

委員長：先程資料1の3ページ目が分かりにくいという話をしたが、資料3のp17の図が非常にいいと思った。結局この施設の特徴がワンストップと繋がっている必要があり、まさにこの資料1の図を、こちらの資料3の方に入れて貰ったらいいと思うが、子育て支援の福祉と保健の元々の方が目立ってしまっている。ここで目立たせるべきは黒字で「福祉×保健」と書いて貰った方がいい。子育て×保健や、福祉×子育て等、二つの機能がワンストップになった事の利点である。ここが目立たないと、この図の意味がないので、ピンクと青とグリーンで色分けしてある

ことは良いが、目立つべきはこのかけ算の所で両方重なっている所であると思う。しかも、この真ん中の白い所が一番目立たなければこの図を作成している意味はないのでそこを是非行ってほしい。そのように修正したものをこちらの資料1の3に入れる。そうすればワンストップになるとこういう事が出来るという説明をして貰えるので、是非それをして頂きたい。p29だが、運営手法はもう少し公民連携の具体的な仕組みというか、一緒に勉強会をする、或いはB委員が言われたようにパブコメで終わらせずにコメントをフィードバックしていく等、もう少し一緒にやっていく感が良かった方が良い。検討することと、周知を事前に行うことは書いてあるが、これでは結局行政が勝手に行っていると言われてしまいかねないのではないかと。そこは保健の人は保健の人、子育ての人は子育ての人、学校担当の連携等、もう少し一緒に作って行くという仕組みを何かしら検討して頂いた方がいいのではないかと。最初のパブコメを皮切りにそういうファンづくりをしていくという事を明言して頂きたい。出来ない理由があるなら教えて頂きたい。

最後に、計画の背景の所に少子高齢化について書いてあるが、熊本だと地震や水害、災害防災の話、SDGs等の社会的な背景というのが大事だと思うので、そこを書き込んで欲しい。

事務局：付け加えようと思う。また内容については検討して少しボリュームを増やそうと思う。

C委員：現在の社会福祉協議会の場所について、そのまま機能するのか、全部保福子施設側に移行してしまうのかどうかという疑問がある。あそこでいつも会議させて頂いており、結構広い部屋があるので、もしも会議室を使えないという事になったら大変なこともある。老人会の部屋もあるので、どういう形になるのか知っておきたい。

事務局：現在社会福祉協議会さんが入っている四小、総合福祉センターについて、新しい施設が出来た後どうするのかという話は、その時点での検討になると考える。当然活用できる分については活用していくという事は想定している。今度作る新しい施設の方でも施設面積に示しているように、会議室も複数配置する。

C委員：何人位入れるのか。

事務局：会議室としては当然色んなご意見を頂いて変更という事にはなるが、p19にあるように会議室としては50.6平米の3部屋という事を想定している。もちろんこの会議室についてはある程度大中差を付けるという事はありえる。健診会場は多目的室としても利用できるような広い部屋を想定しているので、場合によっては100人規模の会議は出来ると思う。当然専用の部屋ではなくてあくまで多目的室との併用という事になると思う。

委員長：やはり、施設が新しくなるのはいいけれど、今ある施設はどうなるのかというのを併せて考えて行かなくてはいけないと思うので、そういうのも丁寧に拾って行って欲しいと思う。

D委員：保健センター内調理室について、荒尾市には中央公民館等、料理をする調理施設がいくつかあるが、子育て中の方達にも使い易い工夫がある調理室があればいいのではと思った。例えばベビーカーでも入れる、調理室内に部分的に子供が遊べるような本があるなど、子育て中の方がお料理教室に参加しやすいような工夫がこの施設の中の調理室があればいいと思った。子育て中の方達はなかなか調理の実習には参加できないという方もいらっしゃるが、離乳等に熱心な方や興味を持つ若いお母さんも多いので、調理は出来なくても調理室の横の部屋から調理を見ることが出来る工夫や、離乳食教室もあれば特色ある施設になれるのではないかとと思う。

また、市の行事などで使用している調理道具や調味料、資料は、新しい施設の調理室内に保管する場所があるかどうかについて伺いたい。市民の方が自由に出入りされる所に調味料とかを置くとなると、安全面の不安もある。

保健センターを利用している方によると、大きな施設になってしまうと駐車場と施設が離れ、健診等で赤ちゃんを連れて来た時に不便になることを心配していたので、その事もお尋ねしたい。

もう一つ、p27の方に道の駅と保健センターの連携について提案だが、道の駅の方に保健センターの教室や活動の広告があると、買い物に来た方の参加に繋がるのではないかと思う。今は荒尾広報を見て参加する方などが多かったのですが、このような工夫をすれば荒尾市民の方たちが気楽に保健センターを活用して頂ける施設になるのではないかと思った。

事務局：道の駅の方での周知告知は道の駅と隣接している施設の性質上、当然考えていきたいと思う。ベビーカーや車いすの方も利用し易いという事は、ユニバーサルデザインという考え方からも取り入れていく必要があると思っている。

D 委員：防災の時は調理をしたものを色んな事で活用するという面もあるので、調理室の横に広い会議室があれば、防災に関しても活用が広がるのではないかと思う。

事務局：同じ施設の中に調理室等、広い会議スペースや多目的室のようなものは配置する予定なので、そういった使い方は当然考えられる。

委員長：D委員の最後の話は、先程のC委員の話にも繋がると思うが、災害が起こった時に、わざわざウェルネス拠点まで行って防災拠点にするかという話があるのではないか。それぞれの地域で日常的にはワンストップで動く事は意義があると思うが、西の方に寄ってしまうという懸念もあるので、その辺も含めて検討していくべきである。

E 委員：このアンケート調査を保護者の方に結果報告をしたり、次はお父さんにも書いて貰ったりと色々膨らませるなど、今後もアンケート調査を行う予定はあるのか。

事務局：速報版なので、最終的には計画書の中に結果は掲載したい。施設が出来るまではまだしばらく時間が掛かるので、色んな考えを伺う機会を考えていきたい。

E 委員：施設が出来上がるのを、子ども達、保護者の皆さんが楽しみにされ、みんなが期待していると思う。荒尾ならではの子育てが出来るように、色々な人達や自分達の意見が言えるとよいので、その意見を生かしてもらいたい。

委員長：それは、大事な事であると思う。記録は取っておいて、追加で調査していくのも大事である。行政の人にはそれが強みになると思うし、多い意見も少ない意見も必要であると思う。市民の皆さんは楽しみにしているという事であり、それを増やしていくには継続的な調査は必要だと思うので、ぜひ検討して頂ければと思う。

B 委員：今保健センターで介護認定審査会を行っているが、新しい施設ではどうするのかというのはきちんと決めて頂きたい。玉名に保健事務所があるが、あそこで荒尾の認定審査会を案内するとなると誰も審査にはいかなくなると思う。荒尾の審査会をどこで行うかを、きちんと提示しておいたほうが良いのではないかと。p15の保健センターの所に介護認定審査会の所が何も書いていない。

事務局：介護認定審査会に関しては、有明行政事務組合の方に委託している。今先生方には荒尾会場という事で保健センターの一室を占有モニタ等で据え付けてやっているが、先生方に玉名まで行

ってもらえるという事は考えていない。有明行政事務組合と協議して、適切な場所を探っていく。

委員長：色んな専門家の方が関わっている事であり、必ずしも施設だけで全部終わらないが、それぞれ地域にある機能の施設をネットワーク化していくという事も大事である。ワンストップ化+ネットワークというのがやはり大事なので、その辺も補足して変えて行って頂ければと思う。

B 委員：p15 の所で、p14 で保健センター・福祉機能・子育てと色分けしてあるように、3-1 の表も本来は全部機能で色分けした方が分かりやすい。

A 委員：荒尾市 PTA 連合会のメンバーからの質問があったが調理室の調理台は IH、ガス、両方置かれる予定なのか伺いたい。学校はガスしかなく、公民館の調理室の IH キッキングヒーターは殆ど使えない。家庭はガスの家庭 IH キッキングヒーターどちらの家庭もあり、子供がガスしか使えない、IH は使った事がないなどあるので、両方が体験できるような施設にして欲しいという意見があった。

もう一点、アンケートは一家庭一回のみなのか。自分がアンケートに答えてから主人が答えようとすると出来なかった。よければ両方出来る方がいいのではないかと。そうすると男性の回答率も上がってくるのではないかと。

事務局：今回のアンケートは世帯を単位としての対象になっているので一回である。コンロについては設計の段階でという事にはなるかと思うが、そういったご意見があったという事で伝える。

委員長：A 委員の要望のように、他の家族も回答できるとよいと思う。

F 委員：p19 について、遊び場スペースの備考の下記参照というのはどれを見ればいいのか。付けなくていいのであればパブコメに出す際にここは消したほうがいいのか。

p21 について、施設の配置で左側に広場・公園があって上に民間施設があり、この施設と「健康づくりに関するサービスの連携利用ができる」という事が示されている。一方、左側の p20 では下にも民間施設というのがあるが、これは p21 に書いていない。ここに来る民間施設は健康づくりとは関連のない施設を想定されているのか伺いたい。

p22 の二階建ての案、一つは二階の事務室の 701 平米はこの比率にしたらかなり奥行きがある。5、60 メートルぐらいあると考えられ、奥行きが何メートルを想定されているのか伺いたい。図 4-3 の方で大型車の駐車場が上にあって、小型車と思いやり車両が下の方に配置されているが、道の駅というのはトラック運転手等の道路利用者の休憩施設なので、道の駅に近い方が本来大型車駐車場であって、上の健診や子供の遊び場スペースは小型車が利用する方が配置的にはいいのかなと思う。これは理由があってこういう配置にされたのであれば教えて頂きたい。p30 は、整備費なのか事業費なのかいうところが分かり辛い。これは総事業費という事だから 10 億円というのは概算事業費の事だろうと思う。パブコメで出すのであればこの辺の言葉を整理した方が見られる方にも理解しやすいのではないかと。

事務局：p19 の文言については削除する。p21 の道の駅の横に民間施設という記載が無いという事については、この民間施設との連携がない為に特段載せていないのではないかと。どこに焦点を当てるかという図なので、より分かりやすい絵に修正したいと思う。

p22 の奥行スケール自体が不自然という点については、ある程度スケールを確認し精査した上で対応したい。

駐車場については、必ず片一方を大型駐車場に寄せる必要があるか或いは両方あった方がいい

のかという考え方もあると思うので、あくまでも案という形である。入れ替えても問題ないかとは思いますが、この辺りもこれから PFI 等でどのような利用者を想定して駐車場を配置するかを調整した所で対応する。

総事業費についても言葉を整理し、それぞれの整備費が遊び場スペースの大きさによって異なるということも踏まえ、表現と金額の方も分かりやすく表現を変えようと思う。

F 委員：先程 p22 の大型車と小型車の駐車場というのは何か理由があるのではという所でお尋ねした。もしかすると下にホテルがあるので頻繁に大型トラックが出入りすると宿泊客の方に迷惑が掛かるから敢えて上の方に持ってきたのではないかと **思ったので、お尋ねしたもの**。先程の健診会場や遊び場スペースを利用の方々に普通乗用車の方が近場に停めることができればそれでいいと思う。

委員長：大分色んな事が分かってくると思うので、その時まで粘り強く継続して話し合っていきたい。対立の構図にならないように、他の人にも見える化できるような仕組みは作っていくべきであると思う。

こうやって見えてくると色々議論することも出てくるし、やはりパブリックコメントは大事だと思う。先程、E 委員が言っていたように、楽しみにしている方も沢山おられると思うので、少しでも多くの人に見ていただき、コメントを貰うというのが大事だと思う。それで終わらせずに継続して続けていけるような仕組みを作っていきたいと思う。是非いい計画を作って頂きたい。パブコメの予定はどのようになっているか。

事務局：パブコメは 8 月に行う予定である。パブコメ期間としては 30 日間を想定している。

G 委員：施設については理想を実現出来ればよいが、実際にモデルや参考にした施設があるのか、どこかに対比できるような地域があるのであれば教えて頂きたい。

事務局：日本全国の全て調べているわけではないが私どもが知る限りでは道の駅とこういった保健福祉子育て施設の複合化合築という所は他の地域では見ていない。道の駅を検討する中で、他の道の駅の事例、或いは子育てとか生活サポートセンターといった形で、単独で施設運営している他自治体はあるので、個別の部分についてはそれらを参考にしつつ、荒尾市独自の色々な施設の連携が出来る土地に、という事で進めている。他の地域にはない組み合わせなので、皆さんの力をお借りしながら、私達もより良い施設を建設して運営していく。

委員長：地元の理解があつてこそなので、地元の区長さんがこうやって受け入れると言ってもらえるのは本当のいい事だと思う。是非その駅を便利にしたい、南新地の価値が上がって荒尾にこういう施設があつてよかったと言ってもらえる施設になるのが大事である。形を作るだけでなく、どちらかという仕組みの方が大事だと思っている。いい建物は仕組みが良くなったということも腕の見せ所だと思うので、是非そういう議論の場を継続的に作って頂きたいと思う。是非地元の皆さんも積極的に参加して頂き、散歩する人が増え健康になったという事になれば、施設が出来た直接的な効果になると思う。

事務局：8 月にパブリックコメントをする事を想定しているので、頂いたご意見を参考に、素案を作成、委員長と相談しながら最終的な形に調整していきたい。三回目の委員会は 9 月を予定している。そこで答申案の方をご審議頂きたいと思う。開催地日時については調整後、事務局からお知らせしたい。

以 上